

要 望 趣 旨

～コロナ禍における安心・安全な保育に向けて～

新型コロナウイルス感染症は未だ収束をみせず、社会経済に大きな影響を与えています。保育施設は社会の根幹を支え、子どもの育ちに「密」は避けられないという保育の根幹との狭間で懸命に役割を担ってきました。

この度、感染力の強い変異株の拡大により感染者が急増し、県内においても休園・休校が多発し、ひっ迫した状況が続いております。

保育所等では、日常の保育において常に感染予防対策を講じ、職員間・外来者からの感染対策にも注意を払っており、多年にわたる職員の負担はピークに達しております。

休園という緊急事態となり、保護者の不安や悩み、また個々の家庭状況を踏まえた養育支援に向き合うことと合わせ、濃厚接触者の健康観察、検体採取といった保育職員が感染リスクを含めた現場対応に比重が大きくなる状態が続くようでは、保育そのものに支障が生じかねません。

感染の急拡大に伴い、管轄保健所の業務がひっ迫している状態とお聞きしておりますが、保健所・市町村・施設の連携強化と役割を明確化していただくことで不安感を顕在化し、現場の意見を反映した別添資料の内容について緊急の要望をさせていただきます。

●保育所等における、新型コロナウイルス感染者発生後の業務の明確化をしてください。

現在、コロナウイルスの感染が保育所入所児に広がり、休園を余儀なくされる施設が急増しております。多くの乳幼児を持つ施設内で感染が発生すれば、クラスターとなりやすく、その把握及び対応にも多くの業務が伴います。

今後、更なる感染拡大が予測される中、毎日の感染予防の業務と緊張感、休園中に予想される不安感を抱えた現場対応について、感染リスク管理を含め園内職員にて行う事は困難であります。

別添資料の意見を基に、保育所等における感染者発生後の保健所・市町村・施設の業務の明確化を図っていただきたい。